

◎ 美術館情報

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの美術館等で、臨時休館やイベントの休止、展覧会の中止や開催期間の変更、および入館方法等が変更になっています。

状況が日々変動しているため、各施設の公式ホームページなどで最新の情報をご確認ください。

1. 愛知県陶磁美術館【愛知・瀬戸】(https://www.pref.aichi.jp/touji/exhibition/2021/t_suiteki/index.html)

6月26日(土)～9月26日(日)

企画展：水滴 小さな陶芸—大島国康コレクションを中心に—



水滴は硯に水をさす時に使う、小さなうつわです。高度な制作技術に支えられた実用品である一方、その造形には地域や時代を映した精神性と遊び心が溢れています。2020年度、名古屋市在住の大島国康氏より愛知県へ「陶磁水滴コレクション」計1,062点が寄贈されました。大島氏の陶磁水滴コレクション

は中世の古瀬戸から近現代にわたり、個人による水滴コレクションとしては日本屈指の規模と内容となっています。本展では、貴重なコレクションから約300点を選び、陶磁製水滴の世界を概観するとともに、香合、茶入など当館の小型古陶磁を併せて展示紹介します。

2. 横山美術館【愛知・名古屋】(yokoyama-art-museum.or.jp)

6月25日(金)～9月20日(月・祝)

企画展：近代日本の礎となった 明治・大正の焼き物

明治政府は明治6年(1873)、オーストリアのウィーンで開催された万国博覧会に初めて公式参加し、日本は近代国家として国際的なデビューを果たします。東洋的な珍しい品々や、精巧な美術工芸品が出品されて西洋にジャポニズム(日本趣味のブーム)を引き起こし、陶磁器は外貨獲得のための重要な輸出品に位置づけられました。また、アール・ヌーヴォーなどの流行の変化にも対応していき、世界を魅了します。しかし、その後100年ほどの間に記憶や記録が失われ、国内での残存数も少ないため、輸出陶磁器の実態は解明されていません。本画展では里帰りした明治・大正時代の輸出陶磁器を中心に展示し、近代日本の礎に大きく貢献した足跡の一端を紹介いたします。



3. 滋賀県立陶芸の森 陶芸館ギャラリー【滋賀・甲賀】(<https://www.sccp.jp/exhibitions/14627/>)

4月1日(木)～7月11日(日)

企画展：「森で生れた驚きの技」展

輸出陶磁の華として、欧米で一世を風靡した明治のやきもの。その華やかで精緻を極めた装飾表現が、近年大きな注目を集めています。昨今では若い世代を中心に、装飾から独自の造形を探究する作家も少なくありません。彼らの多様多彩な〈超絶技巧〉の美は、現代陶芸を象徴する大きな潮流になりつつあります。本展では、こうした最新のトレンドを当館自慢のコレクションから紹介します。時代を超えた技の競演！同時開催の「神業ニッポン」展とともに、新旧の〈超絶技巧〉をご堪能ください。

